

「NECのワークライフバランスとポジティブアクション」

～働きやすい職場づくりを目指す国内の取り組みと、イギリスをはじめとする欧州海外事情と現地の施策等の事例～



今回の人事制度研究会は、「NECのワークライフバランスとポジティブアクション」と題して、日本電気(株)官庁・公共・金融・通信ソリューション企画本部 人事統括マネージャー 但田潔氏より、働きやすい職場づくりを目指す国内の取り組みと、イギリスをはじめとする欧州海外事情と現地の施策等の事例を紹介いただいた。但田氏は、以前スコットランドに赴任され、国内の事情だけでなく海外の事情もよくご存知ということで今回お招きをした。

まず欧州諸国の基本的な労働条件の比較から、ワークライフバランスに関する法定制度概要の日英比較、UK法人での施策内容等を具体的に説明

いただいた。イギリスと日本は労働法規自体が似かよっており、日本の育児休業・介護休業・育児短時間勤務等にそれぞれ該当する制度がある。UK法人では各制度に対応した施策を設けている。日米欧それぞれの考え方の特徴としては、フランスやドイツなどの欧州型はセーフティネットの考え方が強く、アメリカなどのアングロサクソン型は競争・成果主義の考え方が強い。イギリスや日本はその中間に位置している。

日本での取り組みについては、平成13年にファミリーフレンドリー企業表彰厚生労働大臣優良賞を受賞し、その後も法定を超える施策に取り組んでいる。また個人のキャリア重視の考え方から、「休職して育児支援」「働きながら育児をする両立支援」へ、各従業員の「個」の尊重と確立を促している。また、「裁量労働」「成果主義」「テレワーク」の3つを相互に関連させ労働時間を弾力化することで、時間にとらわれない新しい働き方を制度化して意識変革を図っている。労働組合もワークライフバランスに積極的に取り組もうとしているなど、NECの働き方の姿勢や考え方について幅広い観点から紹介をいただいた。

(文責事務局)